

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→

自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス（4～5月）

日付	場所	できごと
4月8日	Y29付近	シオヤトンボ初認 自然観察園に春の訪れを告げるトンボ。その後ぞくぞくとトンボが登場
4月10日	N5付近	キビタキ初認 夏鳥シーズン到来！ 自然観察園にやってきた当初は複数で鳴きあい縄張り争いをしているようでした
4月21日	Y9付近	シュレーゲルアオガエル卵塊確認 「コロコロコロ…」という鳴き声もにぎやか♪
5月13日	Y22付近ほか	アズマヒキガエル上陸 体長7mmほどの小さいカエルが一斉に上陸



シュレーゲルアオガエルの卵塊

極小！足元のお花畑を観察してみた

3～5月頃にかけて、美しい花たちが次々と開花しました。早春の谷戸ではニリンソウやイチリンソウなど見ごたえのあるお花畑が出現しましたが、道路沿いの草むら観察路沿いにもお花畑ができていたのに気がつくしましたか？

ぱっと見では雑草と一括りにされてしまいそうですが、目線を下げて植物たちを見つめると、直径1cmにも満たない小さな花がたくさん咲いていました。観察してみると種類もさまざま、花の形はバリエーション豊かです。生育場所も日当たりのよい明るい草地に生えているもの、やや暗く湿った場所に生えているものなど種類によって好む環境は違うようです。

舗装道路沿いなどの
明るい草むら

キウリグサ



オヤブジラミ



ノヂシャ



ノミソウ

谷戸の湿地沿いや
林縁部

ヒメウス



ツルカノソウ



セントウソウ



タネツケバナ

とくに、谷戸でも舗装路沿いでも多く見られた直径5mmほどの白い花は、姿はそっくりですがよく観察してみると少しずつ違うところがあります。今回はナデシコ科の4種を整理してみました。

植物の詳細な見分けをするときには、花だけでなく、茎や葉の表裏など植物全体をよく見る必要があります。気になったものは写真に記録したり、ルーペを使って調べてみましょう。

舗装道路沿いの土手や草むら(K4～13)	やや湿った谷戸の園路沿い(Y13～34)
オランダミナグサ	ミナグサ
	
・開花時期は4月 ・茎は黄緑色 ・小梗(しょうこう)は萼より短く、花序は密 ・茎の上部や萼片は腺毛が多く触るとべたべたする ・ヨーロッパ原産の帰化植物	・開花時期は4月中旬～5月上旬 ・茎や萼片が紫がかる ・小梗は萼より長く伸びて、花序はまばら ・萼片と花弁はほぼ同じ長さ
コハコベ	ノミノフスマ
	
・開花時期は4月 ・萼片が花弁より長く、外面に毛が生える ・下部の葉には柄がある ・ヨーロッパ等が原産の帰化植物 	・開花時期は4月中旬～5月上旬 ・花弁が萼片より長く、無毛 ・葉は全部無柄 

ギンリョウソウみつけた！

5月1日、K8付近の斜面でギンリョウソウが見つかりました。ユウレイタケの別名もあるツツジ科の植物です。漢字は「銀竜草」。うろこ状の鱗片葉が名前の由来のようですが、なんとも不思議な形、生態をしています。

葉緑素を持たない全身白い植物で、菌従属栄養植物（腐生植物）と呼ばれ、自分で光合成をするのではなく、菌類と共生して、栄養を得ています。また、種子はモリチャバナゴキブリによって運ばれるそうです。たしかにギンリョウソウが生える落葉が堆積した林床にはゴキブリもたくさんいます。見つかったのは1本でしたが、今後増えるかもしれません。



ギンリョウソウ

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、ホームページで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

●●● 2022年1～3月の報告 ●●●

救護実績

【救護件数上位種】

【主な救護原因】

種名	件数
キジバト	8
ヒヨドリ	7
メジロ	7
イソヒヨドリ	3
タヌキ	3

鳥類の原因	件数
ネコなどに襲われる	8
粘着剤に絡む	8
ガラス窓などへの衝突	4
交通事故	3
釣り針（糸）や防鳥ネットに絡む	3

哺乳類の原因	件数
交通事故	2
疥癬症（かいせんしょう）	1

※ 2022年2月27日～3月23日の期間、適切な収容数を超えたため受入れ休止

野鳥の子育てについて、みんなに知って欲しいこと、気を付けたいこと

野鳥は春から秋にかけて、子育てをしています。例えばシジュウカラは、1回に約9羽のヒナを育てます。20日ほどで親鳥と同じくらいに成長するヒナのため、親鳥は早朝からエサを探して飛びまわり大忙し！



9羽の食欲旺盛なヒナたちのお世話は～いへん！

シジュウカラの成鳥（オトナ）

でも、自然界では様々なトラブルがおこります。巣から落ちたり、巣ごと落ちてしまったり、成長して巣から出られるようになってもうまく飛べず地面にいたり・・・思わず助けたくなるかもしれませんが、厳しい自然の中で生きていくためには「**救護しないほうが良い**」ケースがほとんどです。いったいどういうことなのか、ヒナに出会ったらどのように対応すればよいのか考えてみましょう。

まずは、巣立ち前と巣立ち後のヒナについて知りましょう

●巣立ち前のヒナの特徴

- ・地肌が見えたり羽毛が生えそろうっていない
- ・くちばしの両端に黄色や白色のふくらみがある
- ・目が開いていない場合もある
- ・しっかり立つことができない



巣立ち前のヒナがいたら
どうしたらいいの？

●巣立ちしたばかりのヒナの特徴

- ・羽毛は生えそろうているがうまく飛べない
- ・くちばしの両端に黄色や白色のふくらみが残る
- ・親鳥に比べて尾羽が短い
- ・色味が親鳥より淡くぼんやりしている



巣立ち後のヒナがいたら
どうしたらいいの？

巣立ち前のヒナが 落ちていたら…



まずは巣に戻せるか試してみましょう。同じ巣に戻せない場合や強風などで巣が壊れてしまった場合は、代わりの巣（代用巣）を用意すると親鳥が見つけて、エサを運び始めることがあります。

ザル、空き容器、ダンボールなどを工夫して親鳥と再会できるように手助けをしてみましょう。

●代用巣の設置方法

<壁に貼り付ける>



空き容器を半分に切ってテープなどで固定する

<枝などにつるす>



空き容器をヒモで木の枝などにつるす

<地面に置く>



空き容器を地面に置く

●代用巣を作るときのポイント



<良い例>

少し顔が出るくらいの方が見つけやすいので、ティッシュなどで底上げをする



<悪い例>

親鳥は、目と耳でヒナを探すので、見えにくいと見つけることが困難になる

巣立ち後のヒナが いたら…



巣立ち後は、巣の外で親鳥からたくさんのことを学ぶ大切な時期ですが、うまく飛ぶことができず、地面にすることがあります。

そこを人が見つけて保護しようとしてしまうケースも少なくありません。

でも、ほとんどの場合、親鳥はそばにいて面倒をみています。人がいては親鳥が近づけないので、親鳥が見えなくてもヒナに近づかず**立ち去りましょう**。

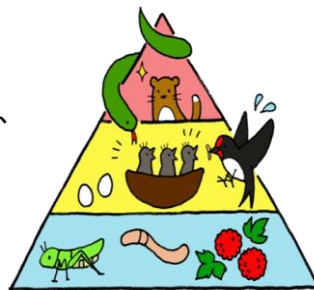
●親鳥から学ぶことはたくさん！

① 飛び方	② 食べ物のとり方
③ 身を守る方法	④ 仲間とのコミュニケーションのとり方 この他にも、厳しい自然の中で生き抜く術を親鳥から学んでいます。

でも、気になってなかなか立ち去れない・・・
と思うとき、思い出してほしいこと

いのちのつながり

ヒナを助けたい。その気持ちはとても大切です。しかし、スズメやシジュウカラなどの小鳥のヒナは、昆虫や植物、木の実などを食べ、フクロウやオオタカなどの猛禽類のヒナは、ネズミや小鳥のヒナなど多くの「いのち」をいただくことによって「いのち」をつないでいます。「たべる」「たべられる」という自然の営みを見守ることも大切です。



許可なく捕まえると法律違反になる！？

野生動物は「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」によって捕獲や飼育には制限があります。たとえ助けることが目的であっても、許可なく捕まえたり、飼育すると法律違反になります。保護する前に、まずは電話で相談をしてください。